

「絆でつながる家庭教育支援セミナー」第2回基礎講座

日時:平成29年6月16日(金) 会場:青森県総合社会教育センター 受講者数10名
 日時:平成29年8月30日(水) 会場:六ヶ所村立中央公民館 受講者数 8名

絆でつながる家庭教育支援セミナーの第1回基礎講座では、それぞれ支援者同士の顔合わせや事業のオリエンテーション等を行いました。今回の第2回基礎講座では、両会場共に**児童心理治療施設「青森おおぞら学園」園長 鳴海 明敏 氏** を講師に招いて、開催しました。

1 「子どもの気になる行動と関わり方 ～発達障害への理解～」(青森市会場：6/16(金))

鳴海氏は、初めて支援者としてサロンを運営する皆さんのために、気になる行動が見える子どもを連れてサロンにいらした母親への支援の仕方や当事者の立場になっての関わり方、その子どもにとって何が必要か、どういう支援が正しいか等を、ワークショップなどを交えながらご講義くださいました。

【支援者として、関わり方で配慮すること】

- ① 支援者は子どもが**発達障害かを見分けなくとも支援はできる**。そもそも発達障害か否かを見極めたり判断したりできるのは医師のみで、それ以外の方は診断できない。
- ② 支援者は知らないことがあっても良い。**知らないことの方が**もっと分かって、理解しようと努力するので、利用者の話を素直に聞いて、それがむしろ**強み**となりうる。
- ③ 母親にうまく寄り添うために**当事者の立場**になったつもりで、**共感**しながら関わりを持つことが重要である。
- ④ 子どもだけに焦点を当てるのではなく、親にも何か問題があるかもしれない**いろいろな可能性**を踏まえて接していく。

講師の鳴海 明敏氏



青森市会場の様子



2 「保護者への支援の在り方について」(六ヶ所村会場：8/30(水))

鳴海氏は、初めに「青森おおぞら学園」や児童養護施設について、その後子育て支援サークル「ろっふる」の皆さんの保護者への支援の在り方について詳しく説明され、最後に森野さかな訳「理想のママのつくりかた」の絵本を読んでくださいました。

【支援者として、押さえておくこと】

- ① 全部を支援する必要はない。**支援者としての限界**をきちんと知り、ひとりで抱え込まない。
- ② **利用者側の目線**で、お客さんに満足してもらうようにする。
- ③ 相手を変えるのではなく、**自分を変えていく**。
- ④ 支援者として、毎日自分の心の状態が安定しているか、**フラットにしておく必要がある**。
- ⑤ 良いことの押し売りをしていないか、傍若無人になっていないか、相手を非難していないか等、**自分で気づける**ようにする。また、スタッフや仲間がそばにいればいい。
- ⑥ お母さん同士がつながれるような**場をつくる**。
- ⑦ 痛みはその人が持っていたとしても今さら過去は変えられない。**回復する力は本人が持っているので、信じて支援**する。

六ヶ所村会場の様子

